

大雨に対する農作物の技術対策

平成30年7月6日
営農経済部

大雨に伴う農作物等の被害を軽減するため、下記の作物別に記載した対策方法を管内の組合員に呼びかけをお願いします。

毎年、田んぼや水路の様子を見に行き流されたり、転落する事故が発生しています。気象庁や京都市の最新の情報を確認し、危険な場所には近づかないように早めに避難をして下さい。

1 水 稲

事後対策

- ① 冠水の被害を受けたほ場は、速やかに排水を図るとともに、土砂が流入した場合、速やかに排出し、稲の回復を図る。
- ② 冠水すると、白葉枯病やいもち病が発生しやすいので、必要に応じて薬剤防除（オリゼメート・コラトップ剤等）を行う。

2 野 菜

事後対策

- ① ハウス施設やほ場に浸水した場合は、早期に排水溝を掘り排水に努める。
- ② ハウスや防風網を点検して、損傷箇所があれば早めに補修する。
- ③ 茎葉の損傷、湿度の高まりにより、病害の発生が助長されるので適用農薬を散布する。（アミスター・アフェット剤）特に、使用時期の収穫前日数に注意する。
- ④ 排水後土壌表面が固結している軟弱野菜のほ場では、土壌が乾燥しほ場に入ることが可能になったら、浅く中耕する。
- ⑤ 果菜類で被害を受けた果実は摘果し、着果負担を軽くさせて草勢回復を図る。
- ⑥ 露地ナスなどの倒伏した果菜類の株は可能な限り起こすと同時に、支柱や誘引線に誘引を行う。またネギが倒伏した場合も同様に起こし、軟白部が曲がるのを防ぐ。
- ⑦ 果菜類などでは、天気が急激に回復すると、ハウス内が高温となるので、天窓やサイド換気を速やかに行う。また遮光ネットの利用や葉水を行い、強光による葉焼けを防止する。
- ⑧ 収穫した野菜は、傷みがないか良く確認しながら調整作業を行い、流通中に発生する荷傷みや腐敗の発生を防ぐ。

3 果 樹

事後対策

- ① 袋の損傷が著しい場合は掛けかえる。
- ② 果実のすり傷、葉の裂傷等から病害発生のおそれがある場合は、速やかに適用薬剤を散布する。なお、薬剤散布にあたっては使用基準を厳守する。

4 花 き

事後対策

- ① 冠水、浸水したほ場では、速やかに排水に努めるとともに、肥培管理を的確に行い生育の回復に努める。
- ② 切り花類等で株元が土砂で埋まって深植え状態になったものは、早期に土砂を取り除き天候の回復を待って浅く中耕する。
- ③ 切り花類の倒伏したものは、できるだけ早く起こし茎の曲がりを防ぐ。
- ④ 枝物類・切り花類は、強風によって折損した茎葉の整理と薬剤散布を的確に行い、病害の発生を防止する。

農薬の散布時は、作物や使用時期の収穫前日数に注意して下さい！